

+++++

「植物と人々の博物館メールマガジン」 第27号 2017年4月3日発行

+++++

沖縄に行ってきました。面白い場所が沢山あり、集まり、協力し合って、遅くお暮らしたと感じました。アメリカ軍人住居の再利用による港川外人住宅街、美ら海財団関係で那覇アグリパーク（写真）、陶芸家の集まるヤチムン村で茶碗を買い求めました。人が集まり村を作れば、さらに人が見に来ます。協力し合い、競い合えば、良いことができ、発展と持続が可能だと思いました。沖縄の浮島ガーデンに藤野シード・バンクに保存してある沖縄収集のキビ種子をお送りしました。キビは波照間島では特産物になっていますが、在来品種はほとんど絶えたそうで、30年ほど前に収集された種子をお返しして、とても喜ばれ、雑穀製品のお礼までいただきました（写真）。うまく発芽するとよいのですが、朗報を待っています。

小菅の畑にはジャガイモを植え付け、キャベツ、カリフラワー、ニンジン、大浦ゴボウなど播きました。小麦とエンドウマメ、ニンニクはよく冬越しして、春を迎えました。と書いたところでまた雪が降りました。昨年初めて味噌を作ったところ、かなりうまくできたので、また仕込みました。

会員および配信を希望される方に「植物と人々の博物館」の公開活動ニュースなどをお送りしています。なお、自然文化誌研究会の全体の活動は「ナマステ」でお知らせしています。ご関心のあるご友人に転送などご紹介いただき、「辺境」の地道な市民活動に薄情なマスコミやギョウセイではなく、顔見知り信頼のクチコミで転送伝達していただけると嬉しいです。

○報告

1. FAO 世界農業遺産の関連情報をお伝えするウェブページ『雑穀街道』を作り、雑穀街道普及会の賛同者を募っています。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

3月28日に小菅村役場職員が関東農政局に説明を受けに行ってくださいました。3月31日にその報告を黒澤事務局長と木俣がうかがいました。小菅村としては時間をかけて検討したいとのことでした。しかし、雑穀街道普及会としては、4月以降、山梨県、神奈川県他の行政担当者に、趣旨説明に伺いたいと考えています。4月19日（水）午後、農水省で今回の認定地についての説明会があり、聴講に行くつもりです。

2. 引っ越し先 3月31日に小菅村教育長に面談しました。細川邸付属倉庫の案がありますが、まだ確定していないようです。

3. 地球環境基金助成は不採択だったそうです。残念ですが、またほかに応募してみます。

○予定

1. シンポジウム「農山村の環境と生活文化から学ぶ都市との交流」（現代文明の移行と伝統知・生業～第39回環境学習セミナー）

4月15日（土）～16日（日）。詳細はHPに掲載し、参加申し込みを受け付けています。ぜひポスター発表をお願いします。15日は、藤野駅から往復貸し切りバスを出しますので、ご利用ください（片道500円の料金補助をお願いします）。時刻表は下記にあります。
<http://www.milletimplic.net/collegefores/applic.html>

なお、4月14日（金）は会場準備作業をします。懇親会では、藤野産BIO市の有機野菜ノラボウなどで料理を作る予定です。

2. 作業予定日：4月21日（金）、28日（金）の予定です。

小菅村中央公民館は、7月から縮小改築の耐震工事を行います。「植物と人々の博物館」は急遽引っ越し先を探さなければならなくなりました。同時に、5月中に、自然文化誌研究会所蔵の民具、雑穀など植物標本、文献図書、書架などを梱包し、梅雨入り前、どこかに移動せねばなりません（写真）。作業にご協力いただきたくお願いします。ご一緒にいただければありがたいです。よろしくをお願いします。ご協力いただける方は木俣にメールしてください。大まかな作業日程は下記です。kibi20kijin@yahoo.co.jp

4月：移転先清掃、展示の配置検討。図書・民具の梱包。

5月：4日一般公開展示解説、8日展示室の民具（INCH分）梱包。展示台・ケース・ボード（INCH分）の整理。

13日雑穀栽培講習会、14日学大実習。*民具（小菅村分）については、移転先の状況によって対応を検討する。

6月：梅雨入り前に、すべての物品の移動。

7月以降：公民館工事。移動先での再展示などを、徐々に行う。

3. 日本村塾ゼミ（読書会）

希望者があれば開催します。ご意見、ご要望をお知らせください。

1) 自給農耕ゼミ第9回 日時：未定、自然と感じ合う農耕の楽しさを語り合いたいと思います。民族植物学ゼミ第4回で出た話題を深めます。テキスト；レイチェル・カールソン（1956）、上遠恵子訳（1996）『センス・オブ・ワンダー』、新潮社。参考図書；同左（1962）、青樹築一訳（1974）『沈黙の春』、新潮社。

2) 民族植物学ゼミ第5回 日時; 未定 農耕文化について学び直したいと思います。

場所 (たとえば): JR 飯田橋駅近くのタイムズカフェ <https://tabelog.com/tokyo/A1309/A130905/13178703/>

JR 飯田橋駅の西口の改札、お堀の川を正面に右側にある神楽坂を登ったら、5分くらい。東京メトロ飯田橋駅B3出口を出て右方向、徒歩3分くらい。

テキスト; 中尾佐助 1966、『栽培植物と農耕の起源』、岩波新書(重版あり)、再読したいロングセラーです。参考図書; 同左(1967)、農業起原論、森下正明・吉良竜夫編『自然—生態学的研究』、中央公論社、所収。

3) 扶桑園ゼミ第3回 日時: 未定、 明治維新を考え直したいと思います。

テキスト; 羽仁五郎(1956)『明治維新—現代日本の起源』、岩波書店(絶版中古有)。参考図書; 原田伊織(2015)『明治維新という過ち』、毎日ワンス; 西鋭夫(2016)『新説・明治維新』、ダイレクト出版; 西野辰吉(1972)『秩父困民党』、講談社; 森田康夫(1993)『大塩平八郎の時代—洗心洞門人の軌跡』、校倉書房。

4. 植物と人々の博物館公開解説

日時: 5月4日(木・祝)、場所: 小菅村中央公民館。引越し準備のため、一部展示のみ公開とします。

5. 雑穀栽培講習会

日時: 5月13日(土・祝)、場所: 小菅村中組の畑など。西原の中川さんと丹波山の岡部夫妻に、実技を教えてください。学大の環境教育専修生の実習も受け入れ予定です。

6. ミレット藤野で雑穀栽培ワークショップが企画されています。

5月下旬から秋まで6回、播種から加工・調整、調理まで実技と講義を行います。

第1回 日時: 5月28日(日)。場所: JR 中央線藤野駅、北隣接の畑(農業生産法人・藤野倶楽部)。

7. 民族植物学第11号の原稿締め切りは2017年7月末です。ご寄稿をお待ちしています。環境学習セミナーの報告、野生植物の利用、九州・沖縄の雑穀栽培、信仰論などを準備しています。・・・バックナンバー第7号以降は残部が少しあり、希望者に差し上げます。第1号からすべての記事はホームページで読めます。

8. 『雑穀のインド亜大陸』は民族について学びながら、ネパール・ブータンおよびインド各州について、個人の実験をまじえながら、自由に書いています。未定稿ですが順次章ごとに公開し、必要に応じて改訂していきます。同じく、『環境学習原論』も書き始めました。ともに、下記の個人ホームページから引用してくださる場合は、「木俣美樹男(2017 未定稿)」としてくださるようお願いいたします。

自然文化誌研究会(東京都日野市): 代表 中込卓男、副代表 中込貴芳(東京)、小川泰彦(埼玉)

ミューゼス研究会/トランジション小菅(山梨県小菅村): 代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館(山梨県小菅村): 館長 木下善晴

日本村塾生・研究員: 木俣美樹男(東京)、西村俊(石川)、藤盛礼恵(千葉)ほか

雑穀街道普及会

事務局長: 黒澤友彦(山梨県小菅村) npo-inch@wine.plala.or.jp

公式HP: 自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行: 木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

個人HP: 生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

森とむらの図書館(引越前)



左：沖縄の浮島ガーデンからのお礼、右：港川外人住宅街



那覇アグリパークの店舗とレストランのメニュー